

生きる力

第 53 号

平成 31 年 4 月 10 日
文責発行：中西秀幸
〒745-0302
周南市鹿野上 3217 番地
TEL 0834(68)2106
FAX 0834(68)2103

認知症講座の講師は、周南市北部地域包括支援センターとおにたけ居宅介護事業所の職員さんでした。明るく元気な若い女性達でした。もの盗られ妄想の寸劇も迫真の演技で感心致しました。なにより最後の質疑応答でのご近所で認知症と思われる方に気づいたら、まずは私たちに教えて下さい、相談して下さいと言われた事です。その仕事の取組み、本気に感動致しました。

認知症、知っているようで知らないのでは？例えば認知症とは？と訊ねられたら私はきちんと答えられませんでした。そこで3月7日「なでしこの会」主催、認知症サポート養成講座に参加、その開催の目的は認知症になっても安心して暮らせる地域づくりです。

脳の働きに障害が生じ、生活する上での支障が6ヶ月以上続いている状態、それが認知症です。その原因は、①脳の細胞がゆっくりと死んで脳が萎縮する変性疾患②脳の血管が詰まって脳細胞の一部が死ぬ③エイズやアルコール中毒等です。①の約半数がアルツハイマー病によって引き起こされま

認知症の中核症状は覚えられない、すぐ忘れる、時間や季節感の感覚が薄れる、道に迷う、周囲の人の関係がわからなくなる、理解判断力の障害、計画を立て段取りをすることができなくなる、その場の状況が読めなくなるなどです。それとは別に、自信を失いすべてが面倒になる、うつ状態になる、排泄を失敗する、妄想が起きる、徘徊するなどの行動・心理症状もあります。

認知症は、早期発見、受診、診断、治療が大事です。その診断に、講座後もっとも質問が集中しました。簡単な質問や作業によつて行われる検査に加えて脳画像検査、血液検査等で診断できる専門医療機関の受診が不可欠のようです。



認知症予防は、社会との接触、人の役に立つ事を日課にする、脳を活性化する学習や活動をしてほめられること等が有効。また、生活習慣病対策も良いらしいです。最後に、認知症の人と接するときの心がまえです。認知症本人に自覚がないは大きな間違い。認知症の人は何もわからないのではありませぬ。誰よりも一番心配な人も、苦しいのも、悲しいのも本人です。そのことを理解の上①驚かせない②急がせない③自尊心を傷つけないが基本姿勢だそうです。

地域イベントご紹介

◎夢プラン策定委員会

・場 所 コアプラザの大研修室
・日 程 4月23日(火)
・時 間 19時より

・テーマ スローガン策定など
・問合せ 68-2094

・コアプラザかの事務局に参加連絡必要！

◎伊藤信一郎先生の英会話教室

・場 所 コアプラザかの

・日 程 4月26日毎月第2・4金曜日

・時 間 19時〜19時45分

・募 集 一般の方 先着15名

・問合せ 68-2331 金本さん

・主 催 夢プラン検討委員会

・参加費 一ヶ月ごとに五百円

周南掃除に学ぶ会

掃除後、毎月参加し支えてくれる高校時代からの友人と話をした。顔をみて会話して関り合うことが大事、話せることが嬉しうことと言われて私も喜びました。4月は東川緑地公園トイレを21日(日曜日)7時より2時間の予定で掃除します。長靴を履いてご参加下さい。お待ちしています！道具準備のため事前申込をお願いしています。が、当日の飛び入り参加もOK！

まちづくりのイベント

・場 所 別所スポーツセンター岡山県新見市
・日 程 6月8日(土)〜9日(日)
・時 間 8日11時半受付 9日13時解散
・調整役 藤谷浩介氏 熊原保氏
・内 容 第一部助けてといえる社会創り
第二部助けてといえる社会創り
夕食交歓会 リレートーク等
・問合せ 0824-66-2317
・主 催 逆手塾 新見公立大学
・参加費 一万八千円(食事・宿泊代込み)
昨年11月の鹿野夢プラン策定の研修視察から人脈が広がりました。一緒に学びに行きませんか？ご連絡お待ちしております。

鹿野が分るクイズ

【問題】

今後鹿野に住み続けたいと思う人の住民割合はどのくらいでしょうか？

明るく元気な鹿野をつくる会の健康福祉部会が過日アンケートをされました。答えはその集計結果資料に基づいてのものになります。

【52号の答え】

3月29日の午後、中西商会倉庫前の桜の花が咲きました。

鹿野が生き残るための一つの方法?!

周南学びの旅推進協議会主催、萩市の民泊を学ぶ視察研修のため萩の明倫学舎に参りました。ちなみに民泊とは農漁業等の生活体験をする宿泊で、民宿とは異なり旅館業法上の許可を得ない宿泊のことと私は理解しております。萩の平成30年度、民泊受入数は1040名受入家庭数は75軒から55軒と減少だった。民泊は地域にお金を落としてもらう事が目的、中山間地にお客様をよぶ仕組み、そのように語られたのは萩の協議会の事務局長の宮崎氏、移住者で妻帯者の若い男性です。その金額をお訊ねすると年間一千万円、手元に残ったのが百万円位だそうです。収入増を計るための新しい取り組みとして外国人旅行者の積極的受入、学校関係だけでなく一般の方の受入、日帰り体験、協議会からの独立等があります。宮崎氏が今年、旅行会社を立ち上げる予定。それは民泊事業の継続性を第一に考えての事だそうです。民宿や民泊などの宿泊ビジネスが消滅寸前の集落を救えることもあるようです。石川県鳳珠郡能登町、山梨県笛吹市芦川町や兵庫県篠山市丸山などにその例がごいます。そして、そのうなる為には民泊の受入動機も変えていく必要があります。生きがいづくりや生活の充実感、交流のためという受入動機も大事ですが、地域の生き残りという具合にです。周南の受入家庭数は102軒、39軒が鹿野です。活用次第で地域資源になれるかもしれません。

助けてと言えるまちづくり